

金沢漁港放流祭り

ヒラメ稚魚5000尾放流

6月29日(木)、東京りー横浜市漁業協同組合金沢八景の金沢漁港で「合金沢支所主催」が行な「第20回金沢漁港放流祭」われた。



八景島周辺で放流する児童たち

このイベントは資源の理解と水産資源の大切保護活動の一環として、さを広く啓蒙することがスタートし、今年で20回を数える。金沢小学校、関東学院六浦小学校の各5年生に参加を呼びかけ、ヒラメの稚魚を遊漁船に乗船しての放流体験を通して、栽培漁業へ

東京湾・金沢漁港

9時前、金沢小学校の児童65人が徒歩で到着。公益財団法人神奈川県栽培漁業協会専務理事の今井利為・水産学博士が、放流魚の成長など写真を

見せながらわかりやすく解説。また、栽培と養殖の違いなどについて、ていねいに話していた。その間、金沢漁港の船長ほか関係者は準備。放流魚がバケツに仕分けられ、児童たちのライフジャケットの手配など忙しく動く。3隻の船に乗り込んだ。

地元小学生が放流体験

で、航程5分ほどの八景島周辺へ。梅雨の晴れ間で日差しが強いなか、見送る人や僚船の同級生に手を振り、はしゃぐ子どもたち。到着後は大きなヒラメの稚魚を海へ放った。そして帰路では、クルージングも楽しんだ。



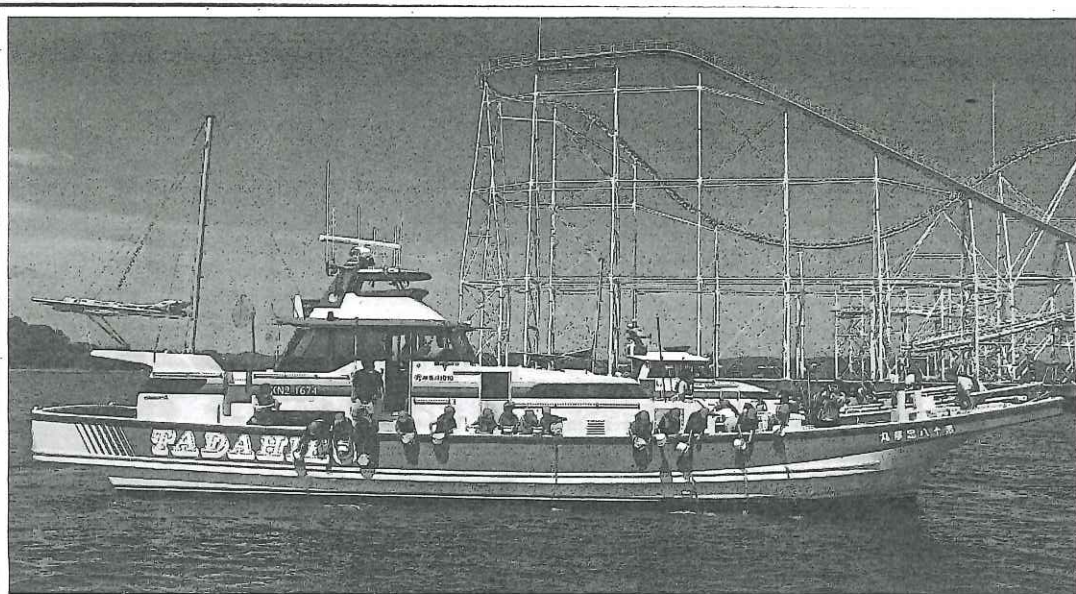
放流後はクルージングも体験



放流魚の説明をする今井さん



組合員に質問をする児童たち



市立金沢小学校の児童たち



7割のヒラメ稚魚を放流



てばやくバケツに稚魚を分ける



初回は3隻に分かれて放流を行なった

後発の関東学院六浦小学校の児童44人は、2隻に乗船し稚魚を放流。同様にイベントを楽しんでいた。

帰港後、児童たちは今井さんと漁港関係者へ質問を投げかける。「漁で獲れる主な魚は？」などさまざまな質問を投げかけられ散会。

同漁協では、今年9月1日に金沢漁港で汐祭りの開催予定とのこと。詳細は組合HP参照。

▼問い合わせ 横浜市漁業協同組合金沢支所 ☎0445(781)8929番 神奈川県栽培漁業協会 ☎046(8882)6980番

(本紙・岩下)